2017.2.19　年間第七主日

しかし、わたしは言っておく

マタイによる福音 5:38-48

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。

　あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

説教

先週からの続きでイエスが語られた山上の説教の反対命題について話します。

1.道徳という解釈、ふつうは道徳を中途半端なところで止めているけれど、つきつめて考えればイエスの言うとおりだ。実際にはやらなくても思っただけで実行したのと同じことだと考える、道徳の極限化という解釈。

2.普通の人にはできない、でもイエスの弟子には特別な力が与えられているのでできる。弟子たちだけに告げた特別な命令だ。

3.これは普通の時の命令ではない。当時は世界の終わりが来ると信じられていたので、そういう状況にあって意味をもつ特別なことばだ。終末に対して身構えろ、と

いう教えだ。

4.この教えは普通に考えていれば意味をなさない。現実に意味のあることばとは思えないけれど、イエスがいったから本当のことだ。救い主であるイエスのことばだからこそ意味がある、深い思慮があるのだという解釈。

山上の説教でイエスが語った反対命題に対するいままでにあったいろいろな解釈を四つに分けてみました。だいたいこれらの解釈をてきとうにまぜて教会では説教されることが多いとおもいます。さいごにはだからみなさんもイエスの教えをまもりましょう、ということでおわり、納得する人や、やろうとは思うんだけどねえと思う人や、独善的だと反発を感じる人などそれぞれです。

イエスがいったからほんとうだ、そこにはわからなくても深い意味がある。だから教えをまもり、右ほほをぶたれたら左ほほをだそう。下着をとられたら上着もさしだそう。悪人にはさからわずいいなりになろう。キリスト者は柔和で寛容だからできるんだ、そうすれば天の神様がよろこんでくださる。こういう風に思い実行する人がいてもダメとはいいませんが、どこかきゅうくつな感じがします。無理してるんじゃないのという感じです。

福音書を読んでいればイエスはのびのびとしていて少しも窮屈な印象がありません。へんに神がかっておおげさなことをやっているようには思えません。大酒のみの大飯ぐらいというイエスの評判をわたしは痛快に感じるほうです。

さて、よくある祈りに敵のために祈るというのがあります。うまいことやったな、やっているなと思いますが、真似をしようとは思いません。イエスが批判する律法主義者は律法を守るだけの人たちです。福音をそのまま（イエスのこおばどおり）に守る人もおなじような人たちで律法主義者と同じ考え方、傾向をもつ人なのではないか、イエスのことばは福音だからわけがわか

らなくても守るただの福音主義者なんじゃないの、というのがおおざっぱですがそういう人たちに対する私の批判です。

「しかし、わたしは言っておく」に続くイエスの反対命題は珠玉の教えです。イエスが寸分の狂いもなくキチッといってくれた。そういうことばが、マタイ福音書の５章から７章にかけて今も残っていて、きょう聞くことができた、このことは大きな喜びです。イエスが言い切った世界はそのままの形で現在も続いています。残念ながらイエスのことばはわたしたちによって実行されずに世界は続いています。

あるときイエスが生まれ、十字架にかかって死んだ。それはわたしたちの罪の贖いのためで、そのことで私たちは救われた、これがキリスト教の教えです。イエスを神の子と信じているからこのような教えが広まり信仰しています。でも、イエスが生まれる前にも世界はありましたし、イエスのあとにも世界はあります。世界の始まりはイエスが反対命題ではっきり言い切ったよい世界として始まりました。しかし世界に悪が入り込み、しだいに世界は悪に染まり、暗くひどいものになりました。それはイエスが生きていた時代も、わたしたちが生きている今も変わりありません。
「しかし、わたしは言っておく」につづくイエスの教えは確かに広まっていますが、それが教えにとどまっているだけからかもしれません。イエスが命がけで残したことばを教会で聞くだけになっているからかもしれません。
（逆説になるのですが）だからこそイエスのことばが希望のことばになり、わたしたちを力づけてくれるのです。